

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームひこばえ
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市早坂町1180番地7
記入者名 (管理者)	宮本浩文
記入日	平成20年9月3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		左記に記載されている内容を日常生活の中で実践している。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	随時、職員にも認識、向上を向けて指導している。ホーム内での掲示及び個人にも配布している。	数年前から左記に記載している取り組みを実践しているが、個人的な意識も左右されると判断している。各職員も前向きな姿勢である。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議の中で自治会長、民生委員の方にまずは話をさせて頂いている。	地域行事への積極的参加を検討している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	運営推進会議の中でも常時話しかけてはいる。	まずは行事等に参加させて頂き、交流を深めていくことを考えている。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	近隣の民生委員の方との交流を深めるように、会議の際の会議場所を提供させて頂いている。	前回同様、運営推進会議の中で地域との交流に向けた意見交換を実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	機会がある度に介護保険事業、認知症等の研修会を開催させて頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	随時、可能な限り、指摘のあったことには改善に向けて検討実施している。		服薬管理やホーム便り作成等前向きな姿勢を基本にして改善に努めている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当グループホームにおける状況報告及び地域代表者からの意見を可能な限り活かしている。		更に具体的な計画を立てて取り組んで行く。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状はまだ、取り組みされていない。但し、必要な連携は実施している。		まずは、社会福祉協議会との連携を検討している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	様々な研修会に参加させて頂きレベル向上に努めている。		積極的研修参加を考えているが、あまり、権利擁護に関する研修会が少ないような感じがする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会がある度に虐待防止の研修会に参加させて頂き防止が徹底されるように努めている。		行政による研修会に参加している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関することについては入所時に十分に説明して理解と納得されることで結んでいる。</p>	<p>契約書や重要書類に関しては理解と納得をされた後に書名、捺印を頂いている。また、書類交付(閲覧)確認記録簿を作成しており、ここにも署名を頂いている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で自由に話して頂けるように話しており、雰囲気づくりも行っている。実際に意見を自由に述べられる利用者の方もいらっしゃる。</p>	<p>自由に話せる雰囲気づくりや処遇会議、サービス担当者会議の中でも話しをしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り送付、金銭出納帳の確認で把握してもらっている。</p>	<p>定期的なホーム便り作成送付、金銭出納帳の確認を行っている。家族の方も納得されている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所の際に冊子という形で不満、苦情を自由に言えるように説明している。</p>	<p>受付担当者、苦情解決責任者を中心に苦情、不満の解決に努めている。今後は、機会をみて、個別による家族との相談機会を検討している。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の業務中や処遇会議の中でも自由にはしていもらうようにはしている。</p>	<p>自由に話せる雰囲気づくりを日頃から行っている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り、状況の変化、意見に対応できるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動した職員は可能な限り訪問してもらうように努めている。ダメージを受けた利用者は今までのところいらっしゃらない。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修、行政による外部評価研修を受講し、質の向上に努めている。		職員の研修機会を多くしたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所への挨拶等で訪問させて頂き、同業者との交流は以前よりは多くなっている。		先ずは、管理者同士の接する機会を多くしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から悩みやストレスになる事については自由に話せるようにしている。		以前は個別による相談機会を設けていた。また、そのような機会を設けようと検討している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員勤務状況は勤務時間、業務内容で把握している。業務分担により、各職員の向上心、責任感が強くなっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に自由に話して頂く機会と利用されてからも随時、話し合う機会を作り信頼関係の構築に努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時や利用されてからも自由に不安、求めていることの相談は随時受けて信頼関係の構築に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り、本人や家族の意向に添えるように努めている。		ケアプラン作成時にも当然意向について明記させて頂き本人、家族が納得されるように努めている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化に少しずつ馴れていただくように本人の意見を尊重してケアを実践している。		ケアプランにも取り入れながら安心して過ごしていただけるように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常時、傾聴の姿勢で心身の安定化に努めている。		行事やレクリエーションにより、密接な関係を構築している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、接触機会を多く設けるようにして信頼関係を築けるように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	双方の気持ちに配慮しながらより良い関係が築けるように努めている。		家族には本人の当グループホームでの暮らしぶりを報告したりして良い関係が築いていけるように支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等自由に訪問して頂き、関係継続の支援は開設当初から行っている。		入所時に自由な面会、外出、外泊はできると話させて頂き、支援を行っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	体操、レクリエーションや様々な行事に自由に参加して頂き、孤立防止に努めている。今まで孤立された利用者はいらっしゃらない。		無理な参加は勿論していただくことなく、本人の自由な意思を尊重して参加して頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			自由な訪問は退所時に話させて頂いている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを中心に利用者、家族の意向を必ず聞き取り入れている。		日常生活の中でも自由に話して頂く機会は設けている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に様々な情報提供書により、暮らしの把握に努めている。また、入所後も可能な限り生活歴に留意して暮らしの支援を行っている。		日常生活の本人の暮らしぶりを記録にも記載して、安心して過ごして頂けるような支援を行っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	サービス担当者会議を中心に各担当者から状態報告をしてもらい、それに応じたケアプラン作成で現状の心身状態に沿った生活を過ごして頂いている。		日々の心身状態を記録に記載して、有する力等に考慮して安心して日常生活を過ごして頂いている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身状態を中心にいろいろと話し合いながら利用者本位の介護計画作成を実施している。		利用者本位の介護計画で日常生活を安心して過ごされている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しのケアプランを作成して、心身状態の安定化に努めている。		状態変化があり、その都度、新しいニーズにあったケアプラン作成を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身状態は詳細な点まで記録して介護計画作成に活かしている。		個別記録に些細な点まで記録して、見直しの介護計画作成に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族との意見がある度に、取り組んでいくように努めている。		個別による機会を設けて、活かすように検討している。また、必ず介護計画作成時には要望を聞き介護計画作成に活かしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議開催、避難訓練実施時に民生委員、消防関係者の方との接する機会はあるが、その他の方とはないので方法を検討している。		地域関係者との更なる密接関係に努める。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者を紹介して頂いたケアマネジャーとは必要に応じて話し合う機会を設けるように努めていおり、ケアマネジャーの方も理解して頂き協力して頂いている。		サービス業者への訪問をさせて頂き関係を密接にしていけるように検討している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を中心に地域包括支援センターの方とは連携を図っている。		長期的なケアマネジメントには、様々な研修会を受講させて頂き、レベル向上に努めている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に十分に説明して納得していただくことで受診支援を実施している。		受診については本人、家族の意見を十分に聞き話合いながら納得してもらい、実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医とは常時、相談できるように関係を築いており、十分な受診支援も行っている。		心身状態の異変に速やかに対応して頂く体制を構築している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により、医師、訪問看護師との連携を常時構築している。		日常的な健康管理の記録を日頃から行っており、心身状態の異変に速やかに対応できる体制を医師、看護師、管理者、介護従業者との間で構築している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者による面会により、入院中の利用者の状態把握が行われている。		家族との連携も多く取り入れながら情報把握に努めている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した指針を作成しており、十分に説明して、ご同意して頂き、同意書に署名、捺印を頂いている。		重度化した指針で理解されており、内容においても納得して頂いている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としての「できること・できないこと」の見極めはできており、それにより、医療機関との連携で利用者の心身状態に応じた支援を行っている。		心身状態の異変に速やかに対応して頂く体制を構築している。異変に速やかに対応できる体制は構築しており、また、随時、状態変化を医師、看護師に報告し支援に努めている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	詳細な個人情報を提供することで、ダメージを防ぐようにはしている。		住み替えられる時は、関係者が十分に話し合って本人の為になるように努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常時、言動に注意してケアを実践している。記録も徹底管理している。	個別の機会を設けて、更に自由に話せるように検討している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃よりなにげない会話の中から利用者の希望されていることなのかを確実に把握して暮らしの支援につなげている。	介護計画にも意向という形で反映させている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせたケアを実践している。	様々な記録は各職員が把握することでその人らしい暮らしができるように努めている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前に十分説明して、馴染みの理美容店に行けるようには説明している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせてできる範囲で職員と一緒にされている。	食事の準備、配膳、片付け等をされている。今後は簡単な調理についても検討はしている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入所前の嗜好調査で本人が楽しく飲食して頂く様に努めている。	食事に関する調査票で食事全体の把握に努め美味しく、楽しく飲食して頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表、身体レベル状態に応じて排泄の支援を行っている。		サービス担当者会議や介護記録、排泄チェック表から全職員が状態の把握に努め支援を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の方の意向や体調面に十分留意して入浴して頂いている。		必ず、入浴される前にバイタルサイン測定を行い、体調面に留意して、気持ち良く入浴して頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各利用者の生活リズムを大事にして安心して休息できるように支援している。		日頃の各利用者の過ごし方や記録を中心に安眠や休息の支援を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時の生活歴を重視して支援を行っている。		更なる方法を取り入れながら、楽しく、穏やかに過ごせるように検討している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の際についてのトラブルが一番問題であり、それに合った適切な対応で金銭所持支援を実践している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春夏秋冬に合わせた行楽地への外出や散歩等を行っている。		可能な限り、現状よりも外出行事を多くできるように検討している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	集団としての外出行事があり、それに沿って実施している。、個別外出は近隣の散歩や買い物等を職員、家族同伴にて実施している。		外出の際は必ず職員、家族に付き添ってもらい安全重視で支援を行っている。集団で行楽地へのドライブ等も行事のひとつとして実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由にして頂いている。また、本人への手紙も届いており、本人または家族にお渡している。		電話、手紙は認知症の個人差や状態に応じて支援を行っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自由に本人に関係ある方が自由に訪問している。		本人も大変喜ばれているようであり、楽しく会話されている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修会等に参加することで知識向上に努めている。		身体拘束を行う際の必要書類は作成しているが、現状では、身体拘束を必要とされる利用者はいらっしやらない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設から、常時、鍵かけないケアを実践している。当グループホームの方針のひとつでもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室する際はノックして必ずプライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の状態に応じて物品の保管、管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアル作成で各職員が事故防止の徹底及び防止に努めている。		技術向上の習得に向けた研修会への受講回数を多くしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアル作成で各職員がほぼ対応できる。		技術向上の習得に向けた研修会への受講回数を多くしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的避難訓練は行っている。また、消火機器の定期点検も行っている。		地域の方との連携により、安全な場所確保に努める。運営推進会議の中でも話しかけている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護記録や介護計画を見て頂き、それらを中心にしながら個別に対応している。		心身状態のリスクが高くなった場合には速やかに医師、看護師への報告と家族への報告を速やかに行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録、バイタルサイン記録、申し送りノートで心身状態の異常や訴えが十分に職員が把握できるように常時実践している。当然、医師、看護師への報告も速やかに行っている。		左記以外にも日常的な健康管理の記録を作成して、心身状態に関する記録を行いながら、体調変化の早期発見、対応に努めている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず処方箋による確認で効能、目的、副作用、用法、用量の理解に努めている。		行政による薬についての研修会を多く受講するように検討している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を中心に利用者の排泄状態把握に努めている。		排泄状態に応じて、下剤服薬、浣腸、排便等の処置を行っている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ADL維持・改善の観点から自力でできる部分は利用者にしていただいている。		できない部分を口腔清潔維持から職員が介助している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェック表により、状態把握に努めている。		利用者の身体レベルに合わせて普通食、お粥、刻み食を提供している。また、食物の嗜好にも配慮しながら食事提供を実施している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルは作成しており、マニュアルに沿って日頃から感染症予防に努めている。		行政による感染症予防についての研修会を多く受講するように検討している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専門的知識を有する調理員による食材の管理を行っている。また、調理員による指導や勉強会も実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている			玄関横の土地に花、植物を植えたりして親しみやすい雰囲気づくりに努めている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じたものを置いたりして、居心地のよい共用空間に努めている。		気分良く毎日を過ごせるように日々努めている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者や職員が自由に会話できる談話室があり、利用者の方も笑顔で話されたり穏やかに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り自由に使い馴れた好みのもを持っていただき、居心地の良い環境作りに努めている。		現状は家族の泊まり部屋なく、これについては様々な問題点があるが、実現を目指して検討している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えを多くして、換気に努めている。また、温度調整は四季に応じて最適な温度調整を行っている。		空調機器の定期的な保守、点検を行っており、快適な状態で過ごしていただくように努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すり設置や段差をなくしたりした工夫等の安全の環境づくりに努めている。		必要に応じて改修や修理が行われるように業者との連携も行っている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	介護記録や申し送りノートで日々の心身状態の変化に努めている。特にADLに応じた支援を行っている。		身体レベル低下に伴って必要な器具購入、介助を取り入れて支援を行っている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにもの干しざを置いて洗濯物を干したりして、生活観を大事にしている。		玄関横に花壇があり、花や植物を植えて空間の活用に努めている。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方の心身状態に十分留意しながら、また、おひとりおひとりの生活リズムを大事にすることで、日常生活を安心して楽しく過ごして頂くように職員一同取り組んでいます。